



小野 恵章 議員

1、今後の本市の行財政改革について

Q 本市の今後の行財政改革について

A 市長 ①被災者に寄り添った心の復興、コミュニティ維持に継続し取り組む必要のほか、地方創生やSDG

①組織改革について。
②協働のまちづくり関連。
③新庁舎の考えについて。
④奥松島観光と奥松島縄文村について。

Q 上町学供エレベーター調査設計費を計上

A Sの取り組みの一層の推進等、情勢変化に対応することが重要だ。復興事業の完結に伴い派遣、任期付職員等相当数減少が見込まれる。各分野での環境変化を踏まえ、限られた人員の効率的配置、機動的な体制の確保が重要と捉え全体的見直しを行い、再編する考えだ。

②野蒜、宮戸市民センターについては、地域住民と調整を図り一元化や統合も含め、効率的な地域活動拠点の在り方について検討していく。まちづくり交付金については、行財政改革の観点から見直しが必要。上町学習等共用施設のエレベーター設置については、東北防衛局とも協

議し、設置の方向で、今定例会において、調査および実施設計業務費用を計上。

③公共施設の長寿命化を含めて、庁舎建設に向けた検討組織や庁舎建設基金の創設について、慎重に検討していく。

A 教育長 ④オルレ奥松島コースのオープンには、里浜貝塚や縄文村の魅力発信につながる絶好の機会と捉え、連携した効果的かつ戦略的な整備と発信に努める。



▲オルレ観光で縄文村の活性化を



▲おいしい給食をありがとう

1、給食の在り方について問う
2、女性に意識向上の機会を与えよ



阿部としよ 議員

Q 給食の「栄養不足」や給食費値上げ「やむなし」の報道を見聞きして本市の給食について心配の音が寄せられている。

A 安い給食費で栄養価が高くおいしい給食を提供しているのは素晴らしいと思う。しかし、新聞によると給食の栄養摂取量の不足が取り上げられて

いる。本市の現状は。食育の面から国産や地産地消にこだわっていると思うが外国産の使用に對しての考え方。食べ残しの問題。今後の給食の在り方、値上げについて。

A 市長、教育長 東松島市の11小中学校の学校給食で、鉄や食物繊維などの栄養素が国の基準を満たしていない

。摂取基準に達しなかった要因について、「近年の異常気象や自然災害で食材が高騰し、材料確保に苦慮している。」

基準に満たない栄養素については、充足率が約85%以上でおおむね満たしている。

鉄分やカルシウム入りの栄養強化食品を利用し、

献立内容を工夫して充足率を満たせるよう努める。食材の選定は、東松島産、宮城県産、次に国産、どうしても対応が困難な魚などの場合に、外国産を使用する。

食に関する指導を行い、残食率の改善に取り組む。来年度の給食費は据え置く方針。

20年度以降については、栄養素の充足が難しくなれば、値上げを含めて検討せざるを得ない。

給食の在り方について問う
栄養強化食品を利用し工夫する

